

6 . 医学部

医学部の教育目的と特徴	・ ・ ・ ・ ・	6 - 2
「教育の水準」の分析・判定	・ ・ ・ ・ ・	6 - 3
分析項目	教育活動の状況	・ ・ ・ ・ ・ 6 - 3
分析項目	教育成果の状況	・ ・ ・ ・ ・ 6 - 15
「質の向上度」の分析	・ ・ ・ ・ ・	6 - 21

医学部の教育目的と特徴

（目的）

医学部規程では、教育目的を「本学部は、医学の基礎と高度な専門知識・技能及び態度を教授することにより、人間、自然、社会に対する豊かな感性と洞察力を持って、世界と地域の医学・医療の発展に貢献できる優れた医療人及び医療系研究者を育成することを目的とする。」とし、医学科では「医療・医学の専門職として必要な知識・技能・態度・判断力・問題解決力及び生涯学習する姿勢を教育し、地域と世界の医療・医学の発展に貢献できる医師と医学研究者を育成する。」ことを、看護学科では「看護の専門職として必要な科学的知識・技術及び自主性と創造力を持ち、主体的に判断・実践ができる問題解決能力を培う教育により、保健・医療・福祉の各分野に貢献できる人間性豊かで倫理観に富む資質の高い看護系専門職を育成する。」ことを教育目的としている。

（特徴）

医学科

医学科では、教育目的に広く“優れた医療人及び医療系研究者を育成すること”を掲げ、全国に先駆けて導入したテュートリアル医学教育により自ら問題点を取り上げ解決する主体的学習とチーム医療の一員となって参加するクリニカル・クラークシップを推進している。また、地域における医療の確保を喫緊の使命としており、岐阜県と連携した地域枠推薦入試を平成20年度入試から開始し、地域医療への関心と志向を育む教育を実践している。さらに、国際的に貢献する医師やリサーチマインドを持った医療人の育成も重要視し、医学部憲章・教育目的や中期計画に掲げる“国際性”“国際化”“研究基盤を支える人材の育成”を目指す教育活動も目的としている。

看護学科

看護学科では、看護実践能力の高い人材育成に重点をおき、知識や技術を修得・発展させるとともに、地域に即した保健医療活動の中心的役割を果たすことのできる看護職の育成を目指している。具体的には、実習施設と一体となった取り組みや、英語4年間一貫教育プログラムを実施している。さらに助産師、保健師は選択制を導入し、少人数教育や養護教諭1種の課程を新設して、看護師資格のある養護教諭を養成している。

〔想定する関係者とその期待〕

医学科では、医療関係者や一般社会から、将来医療機関において医学・医療の急速な進歩や多様化する社会的要請に応え、信頼され誠実で責任ある態度を持つことができる医師の養成が求められている。特に岐阜県は医師数の不足と地域的偏在が問題とされ、その対策が地域社会からの喫緊の要請である。併せて、グローバル化する社会で国際的に活躍できる医療人、減少傾向にある医学研究者を志すリサーチマインドを持った医療人の育成も求められており、幅広い医学・医療の知識とともに将来への展望を意識する教育が求められている。

看護学科にあっては、地域包括ケアシステムの中で看護の役割は今後さらに拡大・複雑化していくことを踏まえ、豊かな感性と人間性を備えた資質の高い看護職の育成が不可欠になっている。そのため、人間と命の尊厳に対する敬愛、豊かな感性と倫理観を身につけた人格の形成、総合的な人間理解の能力、自主性と創造力を持ち主体的に判断・実践出来る問題解決能力、看護専門職として科学的知識・技術を修得しそれを追求していくことができる能力、看護の役割を認識しケアチームの一員として活躍できる能力の育成を目指している。

「教育の水準」の分析・判定

分析項目 教育活動の状況

観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

(1) 教育組織及び教員組織の編成

医学科

医学科は、5大講座 50分野から構成され、幅広い医学知識・技能を教授し、附属病院の各診療科等において臨床教育を実施する体制を整えている(別添資料1-1-1)。また、地域医療医学センターや全国で唯一の医学教育共同利用拠点である医学教育開発研究センターを置き、本学の特色ある教育を推進している。教員数も表1-1-1に示すとおり設置基準で必要とされる教員数を上回っている。

地域医療医学センターが中心となり、在学中の教育とともに、修学資金を受給した卒業生のキャリアアップの推進及び地域医療を支える医師の確保のため、県内各域の中核病院と平成22年9月に岐阜県医師育成・確保コンソーシアムを結成した(別添資料1-1-2)。

さらに、平成25年度には、附属病院に医師育成推進センターを設置した。同センターは、臨床実習・初期臨床研修支援部門と専門医研修支援部門からなり、附属病院における研修医の教育とともに、学部学生の臨床教育も目的としたものである。

看護学科

看護学科は4講座9分野での構成であり、表1-1-1に示すとおり、設置基準を上回る教員数及び保健師助産師看護師学校養成所指定規則(看護師・保健師・助産師)に沿った配置となっており、教員体制は適正である。

表1-1-1 専任教員配置

学科名	収容定員	教員数						大学設置基準 必要教員数
		教授	准教授	講師	助教	助手	計	
医学科	645	49	46	9	41	0	145	140
看護学科	340	11	8	0	16	1	36	12
計	985	60	54	9	57	1	181	152

単位は人であり、平成27年5月1日時点の数値

(出典：医学系研究科・医学部・医学部附属病院概要)

(2) 入学者選抜の状況

医学科

医学科では、平成20年度に地域枠10人の推薦入試を開始し、その後募集人員を増員させてきた。これは、岐阜県の医師数が図1-1-1のとおり未だ低い状態にあることに対し、更なる医師数の増加を見据えた措置である。この地域枠入学者には岐阜県医学生第1種修学資金が、在学学生には第2種修学資金が準備されており、卒業後一定の義務年限を果たすことにより、返還が免除される。

医学科の入学者選抜の状況を表1-1-2に示す。医学科では、2段階選抜の導入(前期日程は平成26年度入試から、後期日程は平成24年度入試から)や面接試験の導入(平成26年度入試から)など、適切な入学者選抜の実施に向けた改善に取り組んだ。

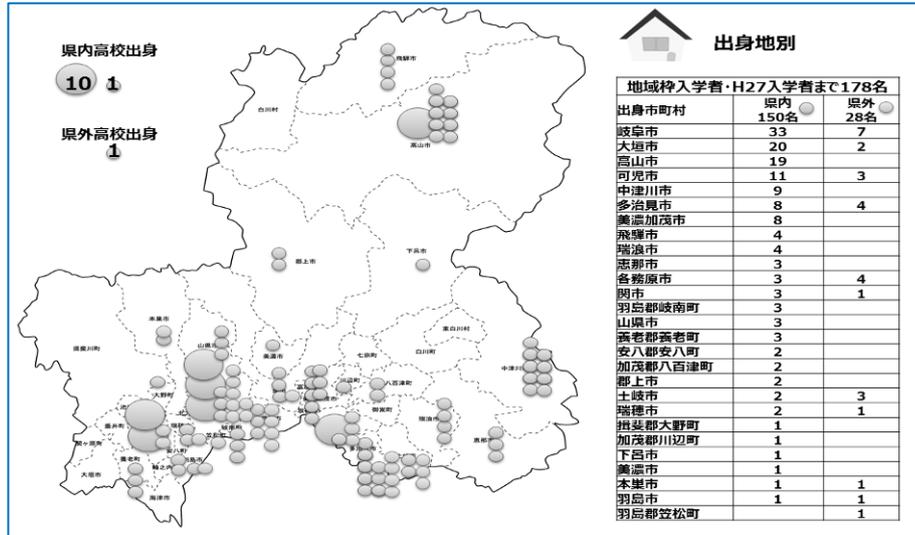
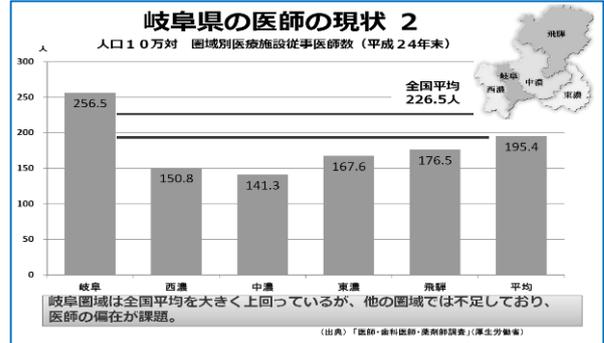
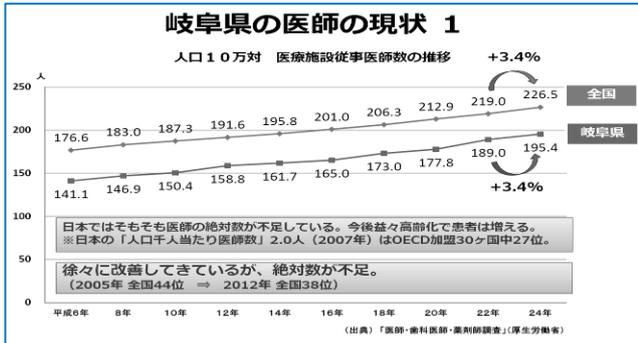


図1-1-1 岐阜県の医師の現状及び地域枠入学生の出身地

表1-1-2 入学者選抜の状況（医学科）

年度	志願者数	受験者数	入学者数	入学者出身県別内訳			
				岐阜県	愛知県	三重県	その他
H22	3456	2705	107	33	32	0	42
H23	4197	3151	108	35	30	0	43
H24	2794	1608	108	39	28	2	39
H25	2872	1876	107	35	30	1	41
H26	1563	692	108	39	33	0	36
H27	1547	569	110	34	28	3	45

（出典：現状と課題第9号等）

看護学科

看護学科の入学者選抜の状況を表1-1-3に示す。入学者選抜方法は、推薦（10名）社会人（3名）前期（47名）後期（20名）3年次編入（10名）である。平成23年度から3年次編入試験の欠格事項を厳格化し質の担保に取り組んでいる。

また、平成22年度に医療・看護の視点を持った養護教諭の養成を目的とした養護教諭一種取得コースを、平成24年度に保健師教育の質の担保を目的とした選抜試験による保健師課程選択制（定員20名）を導入した。

表1-1-3 入学者選抜の状況（看護学科）

年度	志願者数	受験者数	入学者数	入学者出身県別内訳
----	------	------	------	-----------

				岐阜県	愛知県	三重県	その他
H22	364	283	80	42	28	3	7
H23	437	463	80	52	25	1	2
H24	384	278	80	41	35	0	4
H25	359	265	80	48	27	0	5
H26	406	297	80	41	30	1	8
H27	354	262	80	40	32	1	7

(出典：現状と課題第8号及び第9号等)

(3) 教育プログラムの質保証・質向上のための取組

医学科

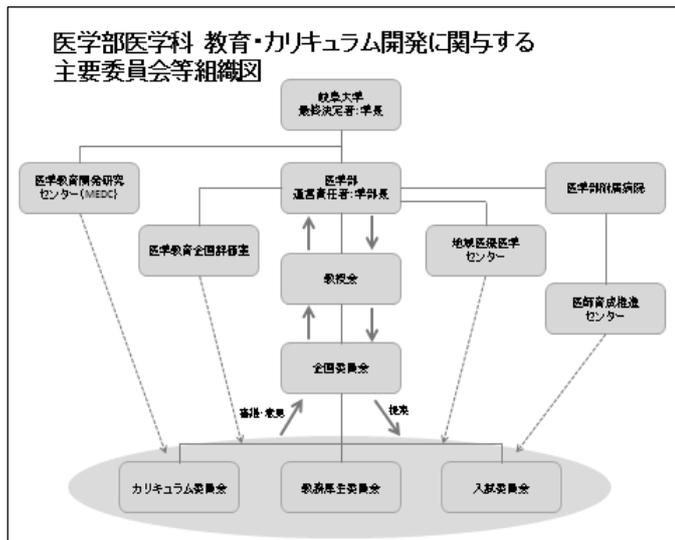
医学科の教育を審議・検討する組織は図1-1-2のとおりである。特に、医学教育共同利用拠点である医学教育開発研究センターは、課題解決型テューリアル教育や医学教育の質保証などに取り組んでいる。

表1-1-4のとおり教育評価等に取り組み、さらに、表1-1-5のとおり学外関係者からの意見も聴取しており、次年度からの実習等の改善に役立っている。これらの取組も踏まえ、表1-1-6のとおり、カリキュラムの改善等に取り組んだ。

さらに、教育、研究、社会貢献等全ての活動について3年に一度自己点検・評価を行い、「現状と課題」としてホームページ上に公表している。

ここまで述べた質保証の取組に加え、平成25年度からトライアル評価が始まった医学教育分野別評価を受審した。

正式な外部評価報告書を受けて改善計画(行動計画)を作成し、今後の医学教育に役立てる。



(出典：現状を踏まえ作成)

図1-1-2 主要組織図

看護学科

表1-1-4のとおり教育評価等に取り組み、表1-1-5のとおり臨地実習前後には臨地実習指導会議を、毎年度末には臨地実習協議会を開催して学外者からの意見を聴取し、実習等教育内容の改善を図っている。

これらの取組も踏まえ、表1-1-6のとおり、カリキュラムの改善等に取り組んだ。特に、平成22年度は養護教諭一種取得のコースを設置し、さらに平成24年度入学生から選抜試験による保健師課程選択制を導入した。また、同年に専門科目を充実させカリキュラムを改正することで、教育プログラムの質向上を図った。

表1-1-4 授業評価等とそのフィードバックの状況

	授業評価の組織的実施状況					フィードバックの状況
	調査等名称	調査時期	調査実施組織	調査内容・方法	報告書	
医学科	テューター評価	毎週	教務厚生委員会	アンケート形式	その都度データ化	データ化したものを各コース主任等へ送付し、改善に資している。

岐阜大学医学部 分析項目

	授業担当教員リフレクション・ペーパー	毎年度始め	教務厚生委員会	アンケート形式	一覧表形式	教育推進・学生支援機構教学委員会に提出、Web上で閲覧可能にしている
	Advanced OSCE 評価	H26.12	学生代表	自由記述	箇条書き	学生から得た自由記述形式のフィードバックを関係委員会に報告
	Advanced OSCE 評価	H27.12	教務厚生委員会・医師育成推進センター	アンケート形式	統計資料	担当委員会・センターへ報告
	臨床実習評価	H28.2	医学教育企画評価室	アンケート形式	統計資料 箇条書き	担当委員会、教授会
【フィードバック方法・教育改善への反映】 授業評価結果は、授業担当教員やコース主任、医学教育企画評価室、関係委員会等へ報告している。						
看護学科	「学生による授業評価」・「教員によるリフレクションペーパー」	前後学期終了時	FD委員会	アンケート形式	集計表	アンケート結果を学科教員及び学生に周知し、改善に努めている。
	「学生の学習に対する自立と責任を持つ態度の育成に関する」	H26.1				アンケート結果を学科教員に周知し、改善に努めている。
	「在学中の学習成果に関する調査」	H26.3	教務厚生委員会			H17～H26年度卒業生アンケート（岐阜大学病院就職者対象）
	「卒業時アンケート」(カリキュラム全体・実習・学校生活など)	毎年2月				
	【フィードバック方法・教育改善への反映】 学生による授業評価及び教員によるリフレクションは、集計結果をAIMSに掲載し教員及び学生に周知している。卒業生アンケート等も各教員に周知することでそれぞれの授業改善に反映させる努力をしている。					

(出典：担当部局からの報告)

表1-1-5 学外関係者からの意見聴取の実施状況

	時期	学外意見聴取対象者	実施方法・内容
医学科	毎年	初期体験実習施設指導者	初期体験実習施設を訪問し、教育担当スタッフから意見・感想等を聴取している。
	毎年	地域体験実習	実習協力ボランティアから意見を聴取している。
	毎年	模擬患者実習	模擬患者ボランティアから意見を聴取している。
	毎年	臨床実習病院の指導医	臨床実習協力病院に指導医からの評価シートに記述欄を設けている。
	H27.2	卒後研修病院卒業生評価	学生が卒後臨床研修を行っている病院の指導医による評価
看護学科	各領域実習終了時・毎年度末	実習先の指導者	領域ごとに臨地実習前後に臨地実習指導者会議を実施し、さらに毎年度末に臨地実習協議会を開催し、実習先の指導者からの意見を聴取・改善に努力している。

(出典：担当部局からの報告)

表1-1-6 教育目標とカリキュラム内容、教育成果の検討改善体制と改善状況

	検討体制(委員会等名)	年度	改善状況
医学科	教務厚生委員会 カリキュラム委員会 医師育成推進センター	H22	現行カリキュラムの手直しを検討
		H23	テュートリアルコースの分割，時期を変更したカリキュラム運用開始
		H24	Advanced OSCE 実施検討開始
		H25	Advanced OSCE 試行 臨床実習ポートフォリオ試行
		H26	Advanced OSCE 運用開始

			臨床実習ポートフォリオ試行
		H27	臨床実習ポートフォリオ試行，本運用検討開始
看護学科	教務厚生委員会 カリキュラム委員会	H22	24年度新カリキュラムに向けて検討
		H23	-
		H24	新カリキュラムの開始及び保健師課程の選択制を実施
		H25	4年次の統合実習の到達目標に照らした実習内容の検討
		H26	ディプロマポリシー、看護学基礎カリキュラム、看護実践能力と24年度カリキュラムの整合性を確認 カリキュラムの順序性の検討
		H27	ディプロマポリシーと「看護専門的能力と卒業到達時目標」の内容の整合性を検討し専門的能力の内容と水準をホームページ上に公表した 学生の主体的な目標による実習領域の選択による統合実習を実施

(出典：担当部局からの報告)

(4) 教員の教育力向上に向けた取組

医学科

表1-1-7のとおりFDに取り組むとともに、表1-1-8のとおり教育活動の改善に取り組んだ。

看護学科

表1-1-7、1-1-8に示すとおり、FDを開催し、それを踏まえて教育活動の改善に取り組んだ。さらに、学生による授業評価の高い授業について、公開授業を実施した。

表1-1-7 学生や教職員のニーズを反映したFD活動の実施状況

	時期	FD活動のテーマ・内容・目的	対象者	参加人数
医学科	H22.6.15 H22.7.7	「初心者向けチューター研修(FD)」	教員	10名
	H23.7.5 H23.7.12	「初心者向けチューター研修(FD)」	教員	18名
	H23.10.12	臨床実習FD	教員	21名
	H24.5.21 H24.5.24	「初心者向けチューター研修(FD)」	教員	47名
	H24.1.23	臨床実習FD	教員	30名
	H25.4.3 H25.4.23 H25.5.16	「初心者向けチューター研修(FD)」	教員	16名
	H25.9.25	選択臨床実習FD	教員、実習協力病院指導医	80名
	H25.10.30	選択臨床実習FD(高山市)	実習協力病院指導医	29名
	H26.4.22 H26.5.19	「初心者向けチューター研修(FD)」	教員	35名
	H26.10.10	選択臨床実習FD	教員、実習協力病院指導医	48名
	H26.10.27 ~10.31	マギル大学(カナダ)臨床実習視察研修	教員	10名
	H27.4.21 H27.5.11	「初心者向けチューター研修(FD)」	教員	36名
	H27.10.5	選択臨床実習FD	教員、実習協力病院指導医	51名
	H27.11.2 ~11.6	マギル大学(カナダ)臨床実習視察研修	教員、医師育成・確保コンソーシアム指導医	14名
看護学科	H22.9.21 H22.3.22	「実習時における教員の感染意識と予防」(深尾亜由美氏) 「見せて魅了しそして磨く技と心」パネラー指導者4名	教職員、他学科教職員、大学院生 実習指導も参加	42名 60名
	H23.8.24 H23.12.21	「看護学科教員交流会」 「新カリキュラム研修会」カリキュラム委員長		22名 35名
	H24.3.6	「授業評価のあり方と活用について」(米谷淳氏)		38名
	H24.9.19	「アカデミックハラスメントの視点から」(秋保賢一氏)		35名
	H25.3.13	「教員の教育力 授業を設計する力」(中井俊樹氏)		33名
	H25.9.17	「ピアレビューの薦め-授業参観の目的方法評価		35名

H26.3.20	(米谷淳氏) 「効果的な授業の振り返りーリフレクションペーパーの作成と活用 (大塚雄作氏)」	35名
H26.9.16 H27.3.17	「人をひきつける話し方」(神田卓郎氏) 「看護学教育における授業評価とその活用」(舟島なみ氏)	33名 31名
H28.3.15	「現代の若者気質と大学教育」(中下富子氏)	66名

(出典：担当部局からの報告)

表 1 - 1 - 8 FD 活動が教育改善に反映された事例等

部局名	年度	事例等
医学科	H23	テュートリアル選択コースの時期を早めた。
	H23	「神経・精神・行動学」コースから「神経構造機能学」コースとして分離独立させるとともに、週数を増加して充実を図った。
	H25	「代謝・機能学」コースを「分子医学」コースと「生体機能学」コースに分割した。
	H27	Advanced OSCE の課題シナリオ，実施要項の改善
看護学科	H25	学生の授業評価の高かった授業を次年度全教員に対して公開授業として開放している。 25.12.18 形態機能学 江村教授(参加人数 27名)
	H27	学生の授業評価の高かった授業を次年度全教員に対して公開授業として開放している。 27.11.27 家族看護学 小林和成(参加人数 10名)

(出典：担当部局からの報告)

(水準)期待される水準にある

(判断理由)

医学科

5大講座50分野を構成し、幅広い医学知識・技能を教授している。また、附属病院医師育成推進センターの設置や岐阜県医師育成・確保コンソーシアムの結成など教育組織の充実を図った。

地域医療を支える人材の育成を推進するため、地域枠推薦入試の入学定員を増員し、また、2段階選抜や面接試験の導入等により適切な入学者選抜の実施に取り組んでいる。

リフレクション・ペーパーやAdvanced OSCE 評価などを通じ、教育の改善に取り組んでいる。これらの取組も踏まえ、カリキュラムの見直しや臨床実習ポートフォリオの導入など、教育活動の改善を行った。平成27年度には医学教育分野別評価を受審し、第三者から評価を受けた。

以上から、取組や活動、成果の状況は良好であり、想定する関係者の期待に応えていると判断する。

看護学科

看護系免許取得という教育目標を達成するため、4講座の下に9分野を設置している。専任教員は、大学設置基準や保健師助産師看護師学校養成所指定規則の基準を上回る教員を配置している。

入学者選抜基準の改正など改善に取り組み、適切な入学者選抜を実施している。

学生による授業評価や教員自身のリフレクションなどに取り組み、ポリシーとカリキュラムの整合性確認などを行っている。

以上から、取組や活動、成果の状況は良好であり、想定する関係者の期待に応えていると判断する。

観点 教育内容・方法

(観点到係る状況)

(1) 体系的な教育課程の編成

各学科の状況は、表1-2-1のとおりである。

表 1 - 2 - 1 体系的な教育課程の編成状況

岐阜大学医学部 分析項目

学科	状況
医学科	<p>別添資料1-2-1及び表1-2-2のとおり、導入科目やテューリアルコース、実習など体系的に配置している。また、附属病院での臨床実習の後 Advanced OSCE で臨床能力を計り、学内外の病院にて更に臨床能力を高めるカリキュラムとしている。これら教育課程の総括試験として 21 科目の卒業試験に合格することを卒業要件とすることで、学位の質を担保している。</p> <p>リサーチマインドを涵養するため、平成 23 年度入学生からテューリアル選択配属（基礎・社会医学系研究室等配属）の時期を早め、その後の研究活動の継続を支援する制度として表 1 - 2 - 3 のとおり各種取組を実施した。</p>
看護学科	<p>表 1 - 2 - 2 に示すとおり、教育課程の編成の趣旨を踏まえ、体系的な教育課程を編成している。特に、学科専門科目や実習時期の配置などを見直し、平成 24 年度にカリキュラムを改正した。このカリキュラムについては、平成 26 年度にディプロマポリシーとの整合性を確認している。</p> <p>また、平成 22 年度には養護教職課程を開設し、平成 24 年度には保健師養成課程を選抜試験による選択制としたことで、将来像を見据えより専門的・実践的な能力を育成できるようにした。</p> <p>平成 26 年度の卒業時アンケートでは、「専門科目の内容や構成が適切である」「講義と演習科目の内容が臨床実習と繋がっている」などの項目について 90% が肯定的に回答しており、体系的な教育課程が編成されていると判断できる（別添資料 1 - 2 - 2）。</p>

（出典：現状を踏まえ作成）

表 1 - 2 - 2 医学部における教育課程の編成

		事項	内容
教養科目	教育推進・学生支援機構	教育課程の編成	<p>全学共通教育科目：初年次セミナー，人文科学，社会科学，自然科学，複合領域，スポーツ・健康科学，英語，第 2 外国語，自由選択科目</p> <p>学部開講科目：医学議論，医学英語（医学科）</p>
		配当単位	<p>医学科 全学共通教育科目：32 単位 学部開講科目：4 単位</p> <p>看護学科 全学共通教育科目：30 単位</p>
専門科目	医学科	カリキュラムポリシー	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生中心の教育 《Student-Centered Education》 2. 問題解決を通じて能動的・体験的に学ぶ 《Problem-Based Learning》 3. 基礎・臨床医学を統合した教育 《Integrated Education》 4. 地域に根ざした教育 《Community-Based Education》 5. 医師としての全人的成長をめざす教育 《Holistic Education》 6. 英語教育と海外実習 《Medical English and Overseas Extern》 7. 学び合う文化 《Culture of Education》
		授与する学士号	学士（医学）
	教育課程の編成	<p>教養教育と並行し専門基礎科目を実施。テューリアルコースの前に生まれ、医学を学ぶに当たっての動機付け(motivation)を高める（「医学概論」、「初期体験実習」等）。第 2 の目的は、テューリアルコースを始める前の基礎知識の獲得にある。（「細胞生物学」、「基礎生化学」、「生命科学実習」、「システムバイオロジー基礎」等）</p> <p>2 年次からのテューリアルコースでは、分野別教育体系がなく、機能別、臓器別、学問体系別に 21 コースが設けられ、これらのコースではそれぞれ教育目標が明確に学生に示され、学生が独自に課題を解決する能力の育成に努めている。</p> <p>共用試験を 4 年次 9 月に課し、合格者は 4 年次 1 2 月から 1 年間の学内臨床実習、6 年次の学内外選択臨床実習に臨む。</p>	
	配当単位	163.3 単位	
	特色ある措置	<p>学生の能動的学習姿勢の育成を目指すテューリアル教育</p> <p>臨床実習はクリニカル・クラークシップ（参加型臨床実習）</p> <p>地域医療教育</p>	
	看護学科	カリキュラムポリシー	<ul style="list-style-type: none"> ・人権と命の尊厳に対する敬愛、豊かな感性と倫理観を身につけた人格の形成 ・総合的な人間理解の能力の育成 ・自主性と創造力を持ち、主体的に判断・実践ができる問題解決能力の育成 ・看護専門職として、科学的知識・技術を習得し、それを追求していくことができる能力の育成

		・看護の役割を認識し、ケアチームの一員として活躍できる能力の育成
授与する学士号	学士（看護学）	
教育課程の編成	教養科目 基礎科目 専門科目 ・基礎看護学・母子看護学・成人・老年看護学・地域・精神看護学・発展看護学	
配当単位の変更	教養科目 30 単位以上 30 単位以上のうち英語 4 単位（ ）を必修 基礎科目 必修 3 単位、選択 2 単位 必修 6 単位 選択 4 単位（生と死のケア、国際交流文化論） 医療英語 3 単位 専門科目 ・基礎看護学 必修 22 単位、選択 5 単位、 必修 24 単位、選択 2 単位 ・母子看護学 必修 14 単位、選択 4 単位 必修 13 単位、 ・成人・老年看護学 必修 24 単位、選択 7 単位 27 単位、選択 2 単位 ・地域・精神看護学 必修 24 単位、選択 6 単位 必修 17 単位 6 単位、選択 2 単位 ・発展看護学 必修 6 単位 選択 3 単位 必修 6 単位 選択 1 単位 23 年度までのカリキュラム 24 年度カリキュラムを示す 24 年カリキュラムは、基礎科目と専門科目（専門科目から 2 単位以上）から合計 4 単位以上選択 保健師選択制導入により公衆衛生看護概論と保健統計学は看護基礎科目の必修に残し、疫学は保健師課程必修科目であるが看護基礎教育においては選択に変更。	

（出典：医学部ホームページ、便覧等）

表 1 - 2 - 3 学部学生のリサーチマインドを涵養する取組の実施状況

取組	内容	支援件数、採用人数					
		H22	H23	H24	H25	H26	H27
学会発表支援	学生の学会発表の旅費・参加費を負担する	1	3	2	9	4	4
学生研究員	基礎・社会系研究室における研究補助業務に対し報酬を支払う	-	-	18	34	31	32
学生企画研究支援	学生の企画する研究活動を支援する	-	-	-	-	1	3

（出典：表 2 1 2、2 1 - 3）

（２）養成しようとする人材像に応じた効果的な教育方法の工夫

各学科の状況は、表 1 - 2 - 4 のとおりである。

表 1 - 2 - 4 養成しようとする人材像に応じた効果的な教育方法の工夫

学科	状況
医学科	医学科では PBL テュートリアル教育を実施しており、学生の能動的学習を促し生涯学習する姿勢を育成している（表 1 - 2 - 5）。また、演習や実習、少人数授業、対話・討論型授業などを取り入れ、養成する人材像に応じ、多様な授業形態を組み合わせる教育活動を行っている（表 1 - 2 6、1 - 2 - 7）。
看護学科	高い看護実践能力を修得した看護職の育成のため、アセスメント能力の育成に重点をおいた看護アセスメント演習やペーパー・シミュレーションを用いたグループワーク、学習支援システムを活用した自己学習など、教育方法を工夫している。 また、4 年次前期の「統合実習」では、全ての実習終了後に学びを統合しより発展的なものとなるよう、学生が主体的に実習領域を選択し自らの目的に沿ったプログラムになるよう体制を整備している。 少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器を利用した授業等を組み合わせ、養成する人材像に応じた教育活動を展開している（表 1 - 2 6、1 - 2 - 7）。

（出典：現状を踏まえ作成）

表 1 - 2 - 5 PBL テュートリアルサイクル

段階	内容
1	コアタイム(グループディスカッション)での症例シナリオの提示から疑問点の発見
2	グループでの議論
3	学習課題の整理
4	自己学習
5	次回コアタイムでの自己学習の成果共有

(出典：岐阜大学医学教育開発研究センターホームページの記載を踏まえ作成)

表 1 2 6 全開設科目に係る授業形態ごとの授業科目(平成 27 年度)

区分	科目数							備考
	講義	演習	実験	実習	実技	その他	計	
医学科	30	21	0	7	0	0	58	テュートリアルコースを講義・演習で各1として、臨床実習は学内・外を各1として計上
看護学科	88	28	0	23	0	0	139	保健師助産師選択科目も含む

(出典：担当部局からの報告)

表 1 - 2 - 7 各授業形態の実施状況(平成 27 年度)

形態	学科	科目数	クラス数	延受講者数	単位数	主な授業科目
少人数	医学科	20	248	2182	82	テュートリアル 2年次8コース(各13グループ)、3年次6コース(各13グループ)、4年次6コース(各11グループ)の延人数
	看護学科	31	62	1979	62	演習科目(前期14、後期16、通年1)
対話・ 討論型	医学科	21	261	2288	83	テュートリアルの各コース
	看護学科	31	62	1979	62	演習科目(前期14、後期16、通年1)
フィー ルド型	医学科	3	3	323	19.5	初期体験実習、地域体験実習、選択臨床実習
	看護学科 (前期)	5	13	255	20	初期体験、在宅看護学、統合、公衆衛生看護学の各実習
	看護学科 (後期)	9	9	630	19	基礎看護学、母性看護学、小児看護学、慢性期看護学、急性期看護学、精神看護学、老年看護学、助産学の各実習
情報機 器利用	医学科	1	1	110	2	システムバイオロジー基礎
	看護学科	1	1	77	2	基礎情報学

単位数は、科目数に係る合計単位数を表す

(出典：担当部局からの報告)

(3) 実習科目実施上の工夫

医学科

学内臨床実習では、平成 25 年度からの試行運用を経て、平成 28 年度から臨床実習ポートフォリオを運用することとした。選択臨床実習では、平成 25 年度から医師育成推進センターが各病院診療科の指導体制を審査(別添資料 1 - 2 - 3)し、学外病院では1チームにつき実習生1名、1診療科につき最大2チームまでとしている。併せて、臨床実習FD・担当者説明会を開催し、実習協力病院の指導医に対し選択臨床実習における到達目標や指導法等の共有を図っている。

看護学科

臨地実習では、実習前後に分野ごとの実習指導者会議を、毎年度末に全実習施設の責任者による臨地実習協議会を開催し、実習内容の改善や各年度の臨地実習総括などを行って

いる(表1-2-8)。また、直接的な看護ケアを実施するため、全実習に教員を帯同させ、支援体制等を充実させている。

表1-2-8 看護学科臨地実習協議会実施状況

開催日	参加者数(人)	参加施設数(施設)
平成24年3月19日	50	40
平成25年3月21日	36	34
平成26年3月18日	46	40
平成27年3月19日	51	40
平成28年3月15日	45	44

(出典：担当部局からの報告)

(4) 地域医療を推進する教育の工夫

医学科

医学科における地域医療関係の教育は、以下のとおり実施している(表1-2-9)。

表1-2-9 地域医療関係の教育の実施状況

低学年時における教育	
ア	初年次セミナー(1年次前学期、必修) 岐阜県健康福祉部長及び医学部地域医療医学センター長の講義で将来この地域の医療を担う意識の喚起とそれを支援する制度の説明を実施。
イ	医学概論(1年次前学期、必修) 全15回のうち3回を地域医療医学センター担当で地域医療を講義。救急医療や総合診療など地域医療と密接な領域の講義も実施。
ウ	地域体験実習(1年次後学期、必修) 地域における幼児、妊婦、高齢者との6週間わたる一対一の継続的交流。ライフサイクルの理解と地域における医療や保健に関心を向けることをねらいとした実習。
中学年時における教育	
ア	地域・産業保健コース(テューリアル・2年次後学期、必修) コースの中で地域保健の制度および方法について学び、これを基礎として地域における疾病の発生予防、早期発見、リハビリテーションおよび福祉対策について理解する。
イ	テューリアル選択配属(2年次後学期～3年次前学期、選択) 医学部地域医療医学センターが学生受け入れ研究室のひとつとなり、地域医療に根ざした病院実習で、地域医療の実際を経験し考える機会とする。地域医療の現状と問題点の把握に加え、包括的地域保健・医療についての実習を行う。
高学年時における教育	
ア	臨床実習(学内、必修) 附属病院各診療科における実習の中で、赤十字血液センター(検査部)、消防署実習(高次救命治療センター)、肢体不自由児施設(整形外科)、訪問看護実習(総合内科・老年内科)など、地域医療施設等での実習。
イ	臨床実習(学内・外、必修) 地域の医療機関診療科で8～12週間の実習を行う。実習協力病院には、へき地診療所やへき地医療拠点病院を含む37医療機関が参加している。
授業科目以外の教育	
ア	地域体験実習(夏季休業期間中) 地域医療医学センターがコーディネートし、希望者に岐阜県内のへき地医療拠点病院(9)および診療所(16)の夏季地域体験実習のほか、JADECOM 地域医療セミナー、岐阜へき地医療研修会、岐阜県外の地域医療実習への参加を促す。
イ	地域医療ゼミ

約2か月に1回の頻度で、地域医療に関わる講師を招き、講演とともに意見交換を行うゼミ。
ウ 奥穂高岳夏山診療所（夏季休業期間中） 北アルプス穂高岳山荘内（標高 3000m）の夏山診療所で、毎年、夏山シーズンピーク時の1ヶ月に、学生、教員、医師、看護師等がチームを組み、登山者の遭難事故ならびに、その他の疾病に対する応急処置に当たる。

（出典：担当部局からの報告）

（5）国際的な医療に臨む学生を育む教育の実施

各学科の状況は、表1-2-10のとおりである。

表1-2-10 国際的な医療に臨む学生を育む教育の実施

学科	状況
医学科	海外臨床実習（別添資料1-2-4）を充実させるため、従前から取り組んでいる医療英語ワークショップに加え、平成25年度から外国人のネイティブ・スピーカーが模擬患者を務めるEnglish OSCEを実施し、海外臨床実習を希望する学生はワークショップの出席とともにこれに合格することを課している。
看護学科	平成24年度から、4年一貫の英語教育が可能になるようカリキュラムを改正し、教養科目の英語4単位、医療英語3単位を増やし、国際化に対応可能な基礎能力をもつ人材育成に取り組んだ。

（出典：現状を踏まえ作成）

（6）学生の主体的な学習を促すための取組

医学科

チュートリアル教育により、学生な主体的な学習を促している。また、そのための環境整備として、チュートリアル室や講義室を自習室として開放している（表1-2-11、表1-2-12）。

看護学科

学生の主体的な学習を促すため、表1-2-11～1-2-13のとおり、セミナー室やパソコンの増設など、教育環境を整備している。各教員は授業内での学生の発言機会設定や時間外の個別指導、教育支援システムAIMS-Gifuの活用など主体的な学習に向けた多くの工夫に取り組み、これらを共有しFD研修会を行い、その内容をさらに深めた。

表1-2-11 自主学習（単位の実質化）を促進する環境整備状況

	状況
医学科	チュートリアル室、講義室、実習室を自習室として開放。 チュートリアル室に医学関係参考図書配置。 医師国家試験対策委員会（学生自主組織）への援助。
看護学科	セミナー室（9室）からセミナー室（13室）に増やしすべて開放している 27年度11月より自習室（1室）を作り、学生の自主運営 図書委員（学生自主組織）への支援

（出典：担当部局からの報告）

表1-2-12 自主的学習環境の整備状況（グループ学習室及び学生用端末）

	22年度	27年度
医学科	・チュートリアル室 30室 ・情報処理演習室にパソコン 80台設置	・チュートリアル室 33室 ・情報処理演習室にパソコン 126台設置
看護学科	・セミナー室 9室 ・パソコン 13台設置	・セミナー室 14室 ・パソコン 19台設置 ・自習室 1室（オープンLAN）

（出典：担当部局からの報告）

表1-2-13 セミナー室の利用状況

	25年度	26年度	平成27年度

看護学科	2972 グループ	3141 グループ	3374
------	-----------	-----------	------

1 グループ複数人で貸し出しているので使用者数は倍以上となる

(出典：担当部局からの報告)

(水準)期待される水準にある。

(判断理由)

医学科

教養教育や専門教育、チューリリアル教育、臨床実習等を組み合わせ、体系的なカリキュラムを編成している。また、学部学生のリサーチ・マインドを涵養するための支援制度を整備している。

PBL チューリリアル教育を実施し、生涯にわたり自主的に学習する姿勢修得に向けた教育を実践している。

平成 25 年度から臨床実習ポートフォリオを試験的に導入するとともに、医師育成推進センターが中心となりクリニカル・クラークシップの教育体制を強化した。

初年次から高学年まで、また夏期休業中にも授業科目外の実習を実施するなど、教育課程を通じて継続的に地域医療を推進する教育を実施した。

海外臨床実習を希望する学生に対し、医療英語ワークショップに加え、新たに English OSCE を開始し、国際性を涵養する教育活動を展開した。

以上から、取組や活動、成果の状況は良好であり、想定する関係者の期待に応えていると判断する。

看護学科

大学設置基準及び保健師助産師看護師学校養成所指定規則の範囲において、体系性を確保したカリキュラムとしている。特に、平成 24 年度入学生からカリキュラムの改正を行い、適正な教育課程の編成により教育目標を達成できるようにしている。

様々な授業形態を組み合わせ、より効果のある形で教育課程を編成するとともに、グループワークや学習支援システム AIMS-Gifu を活用した自己学習など工夫をしている。

平成 24 年度のカリキュラム改正により、4 年一貫の英語教育体制を整備している。

学生の主体的な学習を促すため、セミナー室を増設するとともに、その他学習環境を整備している。

以上から、取組や活動、成果の状況は良好であり、想定する関係者の期待に応えていると判断する。

分析項目 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

医学科

(1) 卒業試験及び卒業生の状況

医学科では卒業試験 21 科目に合格することを卒業要件としている。この 6 年間で卒業試験による留年者は 8 名であり、概ね全ての学生が卒業試験に合格し卒業している。(表 2 - 1 - 1)

また、多くの卒業生が卒後初期臨床研修を行っている 4 病院の指導医による評価結果は、図 2 - 1 - 1 のとおりで良好であるが、一方で図 2 - 1 - 2 のとおり医師国家試験の合格率が低い年もあることから、今後、対策を講ずる。

表 2 - 1 - 1 卒業試験の状況及び卒業生数の推移

卒業年度	卒試受験者数	卒試合格者数	卒試不合格者数	卒業生数
H22	89	89	0	89
H23	79	78	1	78
H24	71	69	2	69
H25	87	84	3	84
H26	97	97	0	97
H27	112	110	2	110

(出典：担当部局からの報告)

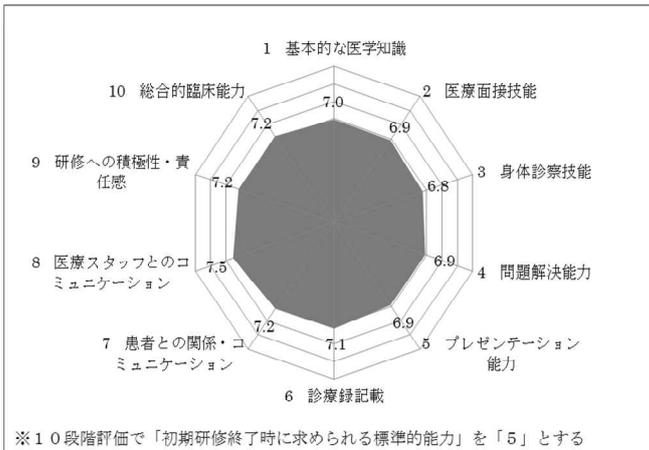


図 2 - 1 - 1 卒後初期研修病院の指導医による卒業生評価 (平均値)

(出典：担当部局からの報告)

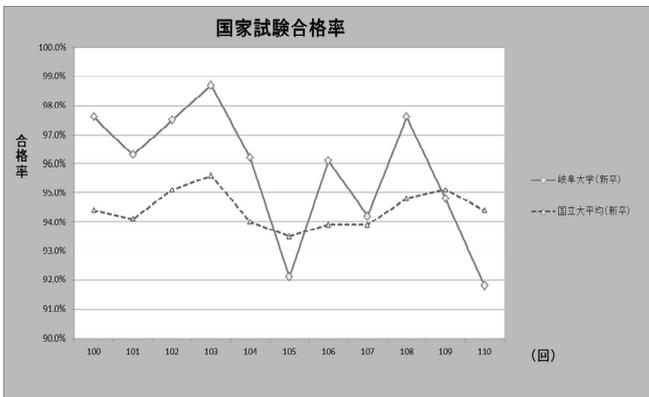


図 2 - 1 - 2

(出典：医師国家試験合格表)

(2) 学生の活動から裏付けられる学業の成果の状況

「学会発表支援」は表2-1-2に、「学生研究員」の採用人数は表1-2-3に、「学生企画研究支援」は表2-1-3に示すとおり、学生の研究活動を支援し、これら活発な活動により学生の学業の成果を裏付けるものである。

また、表2-1-4に示すとおり、地域枠入試で入学した卒業生は概ね県内で初期臨床研修を実施しており、将来地域医療を支える人材を輩出することができた。

表2-1-2 学会発表支援実績

年度	学年	日程	学会等	発表	分野等
H22	3	H22.10.16	日本解剖学会第70回中部支部学術集会	不明	解剖学
H23	5	H23.8.20-21	第21回日本病態生理学会大会	不明	分子生理学
H23	3	H23.8.20-21	第21回日本病態生理学会大会	不明	生理学
H23	5	H24.6.2	59th Annual Meeting of American College of Sports Medicine	不明	分子生理学
H24	6	H24.9.15	第67回 日本体力医学会	不明	分子生理学
H24	3	H24.12.8	日本研究皮膚科学会 第37回年次学術大会・総会	不明	皮膚病態学
H25	3	H25.7.26~27	第45回日本医学教育学会	ポスターセッション	医学教育開発研究センター
H25	3	H25.7.26~27	第45回日本医学教育学会	ポスターセッション	医学教育開発研究センター
H25	3	H25.11.2~3	第64回日本皮膚科学学会中部支部学術大会	ポスターセッション	皮膚病態学
H25	3	H25.11.2~3	第64回日本皮膚科学学会中部支部学術大会	ポスターセッション	皮膚病態学
H25	3	H25.8.2~3	第23回日本病態生理学会	学生セッション	生理学
H25	3	H25.10.5~6	第73回日本解剖学会中部支部学術集会	プレゼン(モーニングセッション)	解剖学
H25	4	H26.3.15~18	第91回日本生理学会大会	ポスターセッション	生理学
H25	4	H26.3.15~18	第91回日本生理学会大会	ポスターセッション	生理学
H25	3	H26.3.15~18	第91回日本生理学会大会	ポスターセッション	生理学
H26	5	H27.3.28~4.1	E B(Experimental Biology) 2015 Boston	ポスターセッション	生理学
H26	3	H26.12.12~13	日本研究皮膚科学会第39回年次学術大会	ポスターセッション	皮膚病態学
H26	3	H26.7.18~19	第46回日本医学教育学会大会	学生セッション	医学教育学
H26	3	H26.7.18~19	第46回日本医学教育学会大会	学生セッション	医学教育学
H27	5	H27.5.23	日本生化学会中部支部例会・シンポジウム	ポスターセッション	分子病態学
H27	5	H27.8.1	第25回日本病態生理学会	プレゼンテーション	生理学
H27	5	H27.10.10	第74回日本毒学会学術総会	プレゼンテーション	薬理病態学
H27	3	H27.12.3	第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学会大会 合同大会	ポスターセッション	分子病態学

(出典：担当部局からの報告)

表2-1-3 学生企画研究支援申請者実績及び採択状況

年度	学年	分野	研究題目	備考	採否
H26	4	薬理病態学	肝細胞がんの進展における低分子量ストレス蛋白質の機能解析	学生研究員	
H26	4	分子病態学	Bリンパ球の <i>Aicda</i> 発現における転写因子HoxC4とBatfの役割の解析	学生研究員	
H26	3	皮膚病態学	表皮細胞におけるIFN-刺激による脂肪酸代謝酵素の発現及びシグナル伝達の解明	選択テュートリアル	
H26	5	生理学	腎求心神経を介するバソプレシン分泌	学生研究員	採択

				M.D., Ph.D.	
H26	4	生理学	高脂肪食飼育ラットにおける血圧の日内変動消失とOrexin A の関係	学生研究員 M.D., Ph.D.	
H26	3	形態機能病理学	Proximal Ligation Reaction (PLR) を応用した融合遺伝子産物検出による病態組織診断の試み	学生研究員	
H26	3	医学教育学	学習・職業・家庭に対する男女医学生の意識差	学生研究員	
H27	3	細胞生理学	ヒトサイクリン依存症キナーゼ18 (CDK18) の機能の解明	学生研究員	
H27	5	高次神経形態学	Arc-venus トランスジェニックマウスの脳を in vivo で透明化し行動中の神経活動をイメージングする研究	学生研究員	採択
H27	5	薬理病態学	肝細胞がんの進展における低分子量ストレス蛋白質の機能解析	学生研究員	
H27	5	生理学	高脂肪食飼育ラットの腹脳中枢 RLM における orexin の役割	M.D., Ph.D.	採択
H27	5	分子病態学	B リンパ球の <i>Aicda</i> 発現における転写因子 Batf の役割の解析	学生研究員	採択
H27	2	救急・災害医学	‘幸せホルモン’ オキシトシンは夜間勤務者の健康にも‘幸せ’をもたらすことができるか？	選択フェューリアル	

(出典：担当部局からの報告)

表 2 - 1 - 4 地域枠卒業後研修状況

卒業年度	地域枠入学定員	卒業者数	県内卒業後初期研修	県外卒業後初期研修
H25	10	10	10	0
H26	15	14	13	1
H27	25	25	25	0

(出典：担当部局からの報告)

看護学科

(1) 国家試験合格率の状況

表 2 - 1 - 5 に示すとおり、看護師、保健師、助産師の各国家試験合格率は高いレベルで推移している。

表 2 - 1 - 5 資格取得者状況

入学年度(卒業年度)	卒業者数	取得資格名及び取得者数(()内は合格率)
H21(H24 卒)	81 人	看護師免許 75 人 (92.6%) 保健師免許 79 人 (98.8%) 1 名未受験 助産師免許 2 人 (100%)
H22(H25 卒)	87 人	看護師免許 86 人 (97.8%) 保健師免許 85 人 (97.7%) 助産師免許 4 人 (100%)
H23(H26 卒)	79 人	看護師免許 79 人 (100%) 保健師免許 79 人 (100%) 助産師免許 4 人 (100%)
H24(H27 卒)	77 人	看護師免許 75 人 (98.7%) 保健師免許 15 人 (100%) 助産師免許 4 人 (100%)

(出典：担当部局からの報告)

(2) 学生のアンケート調査結果等の状況

毎年度実施している学生による授業評価結果を、表 2 - 1 - 6 に示す。講義科目において概ね平均値は上昇し、演習科目においても同様の結果が得られた。これらから、学生の主体的な学習に対する意識が向上しており、本学科の教育成果が現れていると判断できる。

また、表 2 - 1 - 7 に、毎年の卒業生アンケートの結果を示す。卒業時に身についた能力(ディプロマポリシーの項目)は、平成 26 年度卒業生までは旧カリキュラムとなり、年

岐阜大学医学部 分析項目

を追うごとにカリキュラムが充実し、いずれの項目も「そう思う」の割合が増加する傾向にある。平成 27 年度卒業生から新カリキュラムに移行したことにより全体的に「そう思う」の割合が下がることとなった。現在、新カリキュラムの反省を行い、さらなるカリキュラムの充実に向けて検討を行っている段階である。

表 2 - 1 - 6 学生による授業評価 (H23-H27)

		授業内容 の評価	授業のわ かりやすさ	授業 進度	授業の 構成	学生へ の対応	意欲的な 取り組み	積極的な 学習態度	学習内容 の理解	課題及び 出席
H23	講義	4.18	4.19	4.09	4.11	3.83	3.13	3.54	3.93	4.32
	演習	4.32	4.33	4.29	4.32	4.27	3.90	4.25	4.32	4.67
	実習									
H24	講義	4.21	4.23	4.08	4.20	4.12	3.24	3.70	3.98	4.41
	演習	4.11	4.16	4.09	4.19	4.24	3.73	4.16	4.17	4.67
	実習	4.50	4.40	4.60	4.50	4.40	4.30	4.40	4.40	4.80
H25	講義	4.14	4.20	4.05	4.10	4.13	3.47	3.82	4.01	4.51
	演習	4.17	4.20	4.14	4.19	4.25	3.87	4.23	4.18	4.64
	実習	4.40	4.20	4.40	4.40	4.40	4.40	4.40	4.30	4.80
H26	講義	4.16	4.21	4.12	4.16	4.21	3.65	3.90	4.09	4.61
	演習	4.14	4.18	4.15	4.17	4.24	3.92	4.19	4.12	4.64
	実習	4.50	4.40	4.50	4.40	4.50	4.40	4.40	4.30	4.70
H27	講義	4.12	4.17	4.07	4.06	4.09	3.57	3.85	4.10	4.59
	演習	4.31	4.36	4.29	4.34	4.38	3.99	4.26	4.28	4.70
	実習	4.50	4.40	4.50	4.40	4.40	4.30	4.40	4.30	4.70

(出典：各年度授業評価アンケートの集計結果)

表 2 - 1 - 7 卒業生アンケート結果 (H22-H27)

卒業時に身についた能力	そう思う						どちらともいえない					
	22	23	24	25	26	27	22	23	24	25	26	27
1 人権と命に対する尊敬と、豊かな感性と倫理観を身につけた人格の形成ができたと思いますか	88.2	87.1	87.3	88.4	89.3	80.3	10.5	11.4	12.7	10.5	9.3	19.7
2 総合的な人間理解の能力が身についたと思いますか	86.8	90.0	90.1	90.7	92.0	83.1	10.5	7.1	9.9	9.3	8.0	12.7
3 自主性かつ創造力を持ち、主体的に判断・実践ができる問題解決能力が身についたと思いますか	80.3	75.7	88.7	76.7	88.0	84.5	18.4	22.9	11.3	22.1	12.0	12.7
4 看護専門職として、科学的知識・技術の習得ができたと思いますか	80.3	82.9	83.1	82.6	85.3	85.9	18.4	12.9	16.9	14.0	14.7	14.1
5 看護専門職として、科学的知識・技術を探求していくことができる能力が身についたと思いますか	82.9	77.1	83.1	81.4	85.3	83.1	15.8	17.1	16.9	18.6	13.3	15.5
6 看護の役割を認識し、ケアチームの一員として活躍できる能力が身についたと思いますか	81.6	84.3	85.9	82.6	86.7	81.7	17.1	14.3	14.1	15.1	12.0	16.9
卒業時に身についた能力	そう思えない						無回答					
	22	23	24	25	26	27	22	23	24	25	26	27
1 人権と命に対する尊敬と、豊かな感性と倫理観を身につけた人格の形成ができたと思いますか	0.0	1.4	0.0	1.2	1.3	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2 総合的な人間理解の能力が身についたと思いますか	1.3	2.9	0.0	0.0	0.0	2.8	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4
3 自主性かつ創造力を持ち、主体的に判断・実践ができる問題解決能力が身についたと思いますか	0.0	1.4	0.0	1.2	0.0	2.8	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
4 看護専門職として、科学的知識・技術の習得ができたと思いますか	1.3	4.3	0.0	3.5	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5 看護専門職として、科学的知識・技術を探求していくことができる能力が身についたと思いますか	1.3	5.7	0.0	0.0	1.3	1.4	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
6 看護の役割を認識し、ケアチームの一員として活躍できる能力が身についたと思いますか	1.3	1.4	0.0	2.3	1.3	1.4	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(出典：卒業生アンケートの集計結果)

(水準)期待される水準にある
(判断理由)

医学科

卒業試験の合格状況や卒業臨床研修病院の指導医による評価は良好であり、地域枠入学者は初期研修医として岐阜県内で活動していることから、医学科として期待される医師養成に支えられている。

また、学生の研究活動や学会発表は活発に行われており、教育成果が十分に現れていると言える。

以上から、取組や活動、成果の状況は良好であり、想定する関係者の期待に応えていると判断する。

看護学科

看護師、保健師、助産師の各国家試験合格率は良好であり、看護学科として期待される医療人材の養成に支えられている。

また、授業評価アンケートや卒業生アンケートにおいて肯定的な回答率の向上が見られ、本学科の教育活動の成果が現れたものとする。

以上から、取組や活動、成果の状況は良好であり、想定する関係者の期待に応えていると判断する。

観点 進路・就職の状況

(観点到に係る状況)

医学科

卒業生の卒業後の状況は表 2 - 2 - 1 のとおりであり、医師養成課程としての期待に応えるものである。また、表 2 - 1 - 4 のとおり、地域枠卒業生は概ね県内病院に就職しており、概ね期待に応えるものとなっている。

表 2 - 2 - 1 卒業生の就職状況

卒業年度	卒業生数	医師国家試験合格者数	県内病院就職者数	他県病院就職者数	備考
H22	89	82	41	41	
H23	78	74	45	29	
H24	69	65	30	35	
H25	84	81	47	34	
H26	97	92	46	45	1名(国家試験合格) 岐阜大学大学院へ進学
H27	110	101	60	41	

(出典：担当部局からの報告)

看護学科

表 2 - 1 - 5、2 - 2 - 2 に示すとおり、進学希望者を除く就職希望者のほぼ 100% が医療関係に就職できている。

表 2 - 2 - 2 卒業生の就職状況

卒業年度	卒業生数(人)	求人数(人)	就職者数(人)				
			看護師	保健師	助産師	養護教諭	その他
H22	85	21,126	67	9	3	0	6
H23	86	21,927	71	4	7	1	3
H24	81	20,422	68	4	2	0	7
H25	87	20,522	75	2	4	1	5
H26	79	18,578	67	1	4	1	6
H27	77	15,448	62	6	4	2	3

その他は、進学・家事手伝いなど

(出典：進学・就職状況報告書)

本学附属病院へ就職した卒業生(平成16年度以降)に対し平成27年度に実施した「在学中の学習成果調査」では、在学中の学習科目について「とても役に立った」「少し役に立った」と回答した者が専門教育(実習)では95.7%、専門教育(演習)では82.8%、専門教育(講義)では81.7%であった。回答者の多くが卒後5年以内の卒業であったことから、近年の本学科の教育活動の成果が就職後にも現れていると判断できる。

また、附属病院看護部との「看護師育成に関する検討会議」では、附属病院に就職した学生について、職場で高い評価を得ていること及び就職後1年の定着状況が良好であることの発言があった。

(水準)期待される水準にある

(判断理由)

医学科

卒業後、ほとんどの学生が県内病院もしくは県外病院に就職するとともに、在学中に研究成果を挙げた学生が大学院へ進学したことから、医学科として期待される人材を輩出することができた。

以上から、取組や活動、成果の状況は良好であり、想定する関係者の期待に応えていると判断する。

看護学科

国家試験合格率は高いレベルで推移し、また、卒業生に対しアンケート調査を実施したところ、本学科が実施する専門教育について「とても役に立った」「少し役に立った」と回答した割合が極めて高く、教育活動の成果が就職後にも現れていると判断できる。さらに、附属病院看護部との会議においても、卒業生の職場での評価は高いことが言及されている。

以上から、取組や活動、成果の状況は良好であり、想定する関係者の期待に応えていると判断する。

質の向上度の分析

(1) 分析項目 教育活動の状況

1. 学部学生のリサーチマインド醸成に向けた取組 (医学科)

研究活動を志望する学生のため、平成 22 年度から「学会発表支援」制度、平成 24 年度から「学生研究員」制度、平成 26 年度から「学生企画研究支援」制度を開始し、学生の研究活動に対する支援に取り組んだ(表 1 - 2 - 3)。これらの支援により、学生の学会発表等が活発に行われ(表 2 1 - 2、2 - 1 - 3)、平成 27 年度には医師国家試験に合格したが大学院へ進学し研究活動を継続する学生がおり、学部学生のリサーチマインドを醸成する取組の成果の一端が現れた。

これらは第 2 期から始めたものであり、継続して支援が行われ成果の一端も現れたことから、第 1 期に比べ、教育活動の質が向上したと判断できる。

2. 地域医療に貢献する地域枠入学者の設定及び岐阜県医師育成・確保コンソーシアムの設置 (医学科)

地域医療を支える医師育成を推進するため、岐阜県と協力して、平成 20 年度から地域枠推薦入試を開始し、募集人員を増加させてきた(表 3 - 1 - 1)。

これら地域枠の学生に対する在学中の教育や卒後臨床研修などに資するため、本学地域医療医学センターが中心となり、平成 22 年度に「岐阜県医師育成・確保コンソーシアム」を結成し、臨床研究プログラム作成や在学中のキャリア支援、初期臨床研修指導医養成講習会などに取り組んだ。

地域枠の学生が卒業する平成 25 年度以降、卒業生は概ね岐阜県内の医療機関で初期臨床研修を実施しており(表 2 - 1 - 4)、地域枠設定やコンソーシアム設置の取組の成果が現れたと言え、第 1 期に比べ、教育活動の質が向上したと判断できる。

表 3 - 1 - 1 地域枠の募集人員

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
募集人員(人)	10	15	25	25	25	25	25	28

(出典：学部内資料)

3. 国際的な医療に臨む学生を育むための海外臨床実習の体制整備 (医学科)

海外での臨床実習を希望する学生は、一定の資格条件を満たした上で、医学教育開発研究センターが実施する海外臨床実習希望者向けプログラムを修了する必要がある(表 3 - 1 - 2)。その総括試験として平成 25 年度からネイティブ・スピーカーが患者役を務める English OSCE を開始した。(表 3 1 - 3)

これらの取組もあり、海外臨床実習を実施する学生は第 1 期中期目標期間に比べ増加するとともに、その実習先も新たな施設が開拓され世界各地に広まっている(表 3 - 1 - 4)。

これは、海外臨床実習の実施に向けた支援体制の成果が現れたものであると言え、第 1 期に比べ、教育活動の質が向上したと判断できる。

表 3 - 1 - 2 医療英語ワークショップの開催内容 (平成 27 年度)

開催日	開催時間	TOPIC
6月13日(土)	10:00-15:00	History Taking () - Foundations and fundamental techniques
7月11日(土)	10:00-15:00	History Taking () - Advanced techniques and case presentations
9月12日(土)	10:30-15:30	Physical Examination () - Heart, lungs and abdomen
11月7日(土)	10:30-15:30	Physical Examination () - Neurology, musculoskeletal, head and neck

(出典：医学教育開発研究センターホームページ)

表 3 - 1 - 3 English OSCE の受講者数

	H25	H26	H27
English OSCE の受講者数 (人)	12	14	7

(出典：担当部局からの報告)

表 3 - 1 - 4 海外臨床実習の実施状況

第 1 期	年度	H16	H17	H18	H19	H20	H21	年平均派遣人数：2.5 人
	派遣学生数(人)	1	1	4	3	3	3	
	新規派遣先(機関)	-	1	4	1	1	2	
第 2 期	年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	年平均派遣人数：10.7
	派遣学生数(人)	10	7	7	11	14	15	
	新規派遣先(機関)	8	6	4	4	7	4	

(出典：別添資料 1 - 2 - 4 及び担当部局からの報告)

(2) 分析項目 教育成果の状況

1 . Advanced OSCE による学習成果の把握及び実習指導への応用 (医学科)

学生の臨床能力を適切に把握し教育活動に活かすため、平成 26 年度から附属病院での臨床実習後に Advanced OSCE を実施し、身に付けた臨床能力を計りその結果を学生にフィードバックすることで、その後の選択臨床実習での研鑽を促した。また、成績不良者はまず附属病院で選択臨床実習を実施することとし、実習先の診療科へは当該学生の Advanced OSCE 成績を通知したうえで指導を依頼し、より効果的な実習教育となるよう図った。

Advanced OSCE は表 3 - 2 - 1 のとおり実施するとともに、図 3 - 2 - 1 に示すフィードバックシートで具体的な改善点を指摘した。この取組は、第 2 期から開始したものであり、信頼され誠実で責任ある態度を持つことのできる医師の養成に向け、第 1 期に比べ、教育成果の質が向上したと判断できる。

表 3 - 2 - 1 Advanced OSCE の実施状況

	H26	H27
対象学生(人)	112	92
評価者(人)	33	34
模擬患者	22	23
結果	合格者(人)	103
	不合格者(人)	9

(出典：担当部局からの報告)

平成26年度岐阜大学Advanced OSCEフィードバックシート

実施日 平成26年11月25日(火) 学籍番号 [] 出席番号 []
 実施会場 岐阜大学医学部教育・福利棟 氏名 []

総合概略評価	3	総合順位	106 位 / 112 位
総合得点	50.3 点 (平均62.2点)		
医療面接	50.6 点 (平均68.8点)	身体診察	50.0 点 (平均56.2点)

■症例1
 概略評価 3 (相当のミスがある(標準的な5年生レベル))
 あなたのスコア 総合 47.4 点 医療面接 44.4 点 身体診察・説明 50.0 点
 平均スコア 総合 66.1 点 医療面接 71.7 点 身体診察・説明 61.1 点

A	診察中のコミュニケーション・態度	3 / 8
B	基本的な情報収集スキル	5 / 8
C	診断のための情報収集スキル	3 / 7
D	患者への説明スキル	1 / 5
E	診察時のコミュニケーション・態度	2 / 6
F	的確な身体診察スキル	3 / 3
G	標準的検査選択	2 / 3
H	個別に必要な検査選択	0 / 1
I	標準的観察	3 / 5
J	高度な知識に基づく観察	3 / 5
K	診断・治療方針決定への適切なアプローチ	1 / 4
L	高度な知識・経験に基づく診断・治療方針決定	0 / 1

1 更なる努力を要する箇所

■症例2
 概略評価 3 (相当のミスがある(標準的な5年生レベル))

(出典：担当部局からの報告)

図 3 - 2 - 1 フィードバックシート

2 . 国家試験合格率と卒業生への意見聴取結果から見る教育成果の状況 (看護学科)

看護師国家試験合格率を表 3 - 2 - 2 に示す。看護学科の看護師国家試験合格率は全国平均値を概ね 10%前後上回っており、看護学科の教育成果が第 1 期中期目標期間から引き続き常に高い質にあると言える。

また、平成 27 年度に実施した「在学中の学習成果調査」では、在学中の学習科目について「とても役に立った」「少し役に立った」と回答した者が専門教育(実習)では 95.7%、専門教育(演習)では 82.8%、専門教育(講義)では 81.7%であり、看護学科の教育成果は就職後も役立つものであると言える。

この卒業生に対するアンケート調査は第 1 期には実施しなかったものであり、全国平均

を大きく上回る国家試験合格率と併せて、看護学科の教育成果の高い質を維持していると判断できる。

表3 - 2 - 2 看護師国家試験合格率の推移（全国平均値との比較）

第1期	年度	H16	H17	H18	H19	H20	H21
	本学合格率	100.0%	97.5%	98.7%	98.8%	98.8%	100.0%
	全国平均合格率	91.4%	88.3%	90.6%	90.3%	89.9%	89.5%
	差分	8.6%	9.2%	8.1%	8.5%	8.9%	10.5%
第2期	年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27
	本学合格率	98.7%	98.7%	91.6%	97.8%	98.8%	97.4%
	全国平均合格率	91.8%	90.1%	88.8%	89.8%	90.0%	89.4%
	差分	6.9%	8.6%	2.8%	8.0%	8.8%	8.0%

本学、全国平均とも新卒と既卒を合わせた合格率

差分は「(本学合格率) - (全国平均合格率)」の値

(出典：岐阜大学データ集)